

注3

大学番号：私298

[平成31年度設置]

計画の区分：大学の設置

認可

高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 高知学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）	庶務課	教務・学生課
職名・氏名	課長 <small>タカハシサオエ</small> 高橋佐苗	課長 <small>シラツチハツネ</small> 白土初音
電話番号	088-850-2311	
（夜間）	088-850-2311	
F A X	088-850-2323	
e-mail	takahashi@kochireha.ac.jp	

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

リハビリテーション学部

<リハビリテーション学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	52
補足説明資料（専門職大学等）	57

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 高知学園

(2) 大学名

高知リハビリテーション専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒781-1102

高知県土佐市高岡町乙1139-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(キラ マサヒト) 吉良 正人 (平成26年8月)		
学長	(オジマ ユタカ) 小嶋 裕 (平成31年4月)		
学部長	(オオクラ ミツヒロ) 大倉 三洋 (平成31年4月)		
学科長	(タガシラ カツユキ) 田頭 勝之 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

高知リハビリテーション専門職大学

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
リハビリテーション学部	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4	150	—	600	
リハビリテーション学科		4	150	—	600	
理学療法士専攻		4	70	—	280	
作業療法士専攻		4	40	—	160	
言語聴覚士専攻		4	40	—	160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	—	—	—	—	—	—	—	—	150	—	0.88倍	—倍	
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
志願者数	—	—	—	—	—	—	—	—	152	—			
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
受験者数	—	—	—	—	—	—	—	—	147	—			
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
合格者数	—	—	—	—	—	—	—	—	139	—			
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
B 入学者数	—	—	—	—	—	—	—	—	132	—			
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
入学定員超過率 B/A									0.88				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	132 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	132 [-] (-)	- [-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
平成28年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	132 人	0 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{132} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

高知リハビリテーション専門職大学

2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間の探求	心理学 教育学 生命倫理	1前 1前・後 3前	2 2 2								2 1 2
	社会の探求	コミュニケーション論	1前・後	2			1					
		社会学	1前	2								1
		リーダーシップ論	4後	1								1
	地域の探求	国際関係論	4後	2								1
		地域課題研究 I	2後	1			2					
	自然の探求	地域課題研究 II	3通	1			7	9	7	3		
		生物学	1前	2								1
		数学	1後	1								1
		物理学	1後	1								1
		統計学	1後	2								1
		情報処理演習 I	1前	1			1		1			
	健康の探求	情報処理演習 II	1後	1			1		1			
		健康科学	1前	1			2					
外国語の探求	健康とスポーツ	1前・後	1								3	
	英語 I	1前・後	2			1						
	英語 II	1前・後	1			1						
	英会話	1前・後	1								1	
	中国語	1前・後	1								1	
	小計(21科目)	-	13	17	0	9	9	8	3	0	16	
基礎医学	医学英語	2前	1								1	
	解剖学 I (総論・神経系)	1前	1			1					1	
	解剖学 II (内臓・脈管系)	1前	1			1					1	
	解剖学 III (骨格系)	1後	1			1					1	
	解剖学 IV (筋系)	1後	1			1					1	
	生理学 I (動物性機能)	1前	1								3	
	生理学 II (植物性機能)	1後	1								3	
	運動生理学	1後	1			2						
	運動生理学実習	2前	1			2	1		1			
	基礎運動学	1後	2			1						
	運動機能学実習	2前	1			1	1		1			
	理学療法	2前	1			1			1			
	運動学演習	2前	1			1			1			
	作業療法	2前	1			1			2			
	運動学演習	2前	1			1			1			
	人間発達学	1後	1								1	
小計(14科目)	-	5	10	0	6	2	0	3	0	8		
臨床医学	医学概論	1後	1								1	
	病理学	1後	1								1	
	内科学	2後	2								4	
	整形外科	2後	2			1						
	臨床神経学	2前・後	2								2	
	精神医学	2前	2								3	
	小児科学	2後	1								4	
	リハビリテーション医学	2前・後	1								1	
	臨床心理学	2前	2								3	
	耳鼻咽喉科学	2前	2								1	
	形成外科学	3前	1								1	
	臨床歯科医学	3前	1								1	
	画像診断学	3前	1								1	
	臨床栄養学	3前	1								1	
	臨床薬理学	3前	1								1	
	救急管理実習	3前・後	1								1	
小計(16科目)	-	11	11	0	1	0	0	0	0	24		
保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	1前・後	1			2						
	社会福祉概論	1前・後	2								1	
	地域包括ケア論	3後	2								2	
	チーム連携論	4前	1								1	
	小計(4科目)	-	6	0	0	2	0	0	0	0	4	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間の探求	心理学 教育学 生命倫理	1前 1前・後 3前	2 2 2								2 1 2
	社会の探求	コミュニケーション論	1前・後	2			1					
		社会学	1前	2								1
		リーダーシップ論	4後	1								1
	地域の探求	国際関係論	4後	2								1
		地域課題研究 I	2後	1			2					
	自然の探求	地域課題研究 II	3通	1			7	9	7	3		
		生物学	1前	2								1
		数学	1後	1								1
		物理学	1後	1								1
		統計学	1後	2								1
		情報処理演習 I	1前	1			1		1			
	健康の探求	情報処理演習 II	1後	1			1		1			
		健康科学	1前	1			2					
外国語の探求	健康とスポーツ	1前・後	1								3	
	英語 I	1前・後	2			1						
	英語 II	1前・後	1			1						
	英会話	1前・後	1								1	
	中国語	1前・後	1								1	
	小計(21科目)	-	13	17	0	9	9	8	3	0	16	
基礎医学	医学英語	2前	1								1	
	解剖学 I (総論・神経系)	1前	1			1					1	
	解剖学 II (内臓・脈管系)	1前	1			1					1	
	解剖学 III (骨格系)	1後	1			1					1	
	解剖学 IV (筋系)	1後	1			1					1	
	生理学 I (動物性機能)	1前	1								3	
	生理学 II (植物性機能)	1後	1								3	
	運動生理学	1後	1			2						
	運動生理学実習	2前	1			2	1		1			
	基礎運動学	1後	2			1						
	運動機能学実習	2前	1			1	1		1			
	理学療法	2前	1			1			1			
	運動学演習	2前	1			1			1			
	作業療法	2前	1			1			2			
	運動学演習	2前	1			1			1			
	人間発達学	1後	1								1	
小計(14科目)	-	5	10	0	6	2	0	3	0	8		
臨床医学	医学概論	1後	1								1	
	病理学	1後	1								1	
	内科学	2後	2								4	
	整形外科	2後	2			1						
	臨床神経学	2前・後	2								2	
	精神医学	2前	2								3	
	小児科学	2後	1								4	
	リハビリテーション医学	2前・後	1								1	
	臨床心理学	2前	2								3	
	耳鼻咽喉科学	2前	2								1	
	形成外科学	3前	1								1	
	臨床歯科医学	3前	1								1	
	画像診断学	3前	1								1	
	臨床栄養学	3前	1								1	
	臨床薬理学	3前	1								1	
	救急管理実習	3前・後	1								1	
小計(16科目)	-	11	11	0	1	0	0	0	0	24		
保健医療福祉の理念	リハビリテーション概論	1前・後	1			2						
	社会福祉概論	1前・後	2								1	
	地域包括ケア論	3後	2								2	
	チーム連携論	4前	1								1	
	小計(4科目)	-	6	0	0	2	0	0	0	0	4	

高知リハビリテーション専門職大学
【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			2							
	理学療法概論演習	1前	1			1	1						
	理学療法セミナー I (PBL)	1後	1				1	1					
	理学療法セミナー II (PBL)	2前	1			2							
	臨床運動学	2後	1			1							
	理学療法管理学	3後	1			1							
	小計(6科目)	-	6	0	0	4	3	2	1	0	0		
	理学療法評価学	理学療法評価学	1後	1				1					
		理学療法測定実習 I	2前	1				2					
		理学療法測定実習 II	2後	1				2					
		理学療法検査実習 I	2前	1				1		1			
		理学療法検査実習 II	2後	1				1		1			
		電気診断学	3前	1			1						
		小計(6科目)	-	6	0	0	1	4	0	1	0	0	
	運動療法学	運動療法学	2前	2			2						
		運動療法学実習	2後	1			2						
		物理療法学	2前	2							1		
		物理療法学実習	2後	1			1				1		
		理学療法日常生活活動学	2前	2			1						
		理学療法日常生活活動学実習	2後	1			1		1				
		内部障害理学療法実習	3前	2			2	1					
中枢神経障害理学療法実習		3前	1								1		
脊髄障害理学療法実習		3前	1								1		
運動器障害理学療法実習		3前	1					1			1		
発達障害理学療法実習		3後	1				1						
老年期障害理学療法実習		3後	1			1		1					
義肢装具学演習		3後	1				1						
理学療法技術実習 I (運動関節学の手技)		3前		1							1		
理学療法技術実習 II (神経筋促進手技)		3後		1			1				1		
理学療法技術実習 III (生体観察手技)		3前		1							1		
理学療法治療学実習 I (脳障害)		3前		1							1		
理学療法治療学実習 II (ICU)		3後		1							1		
理学療法治療学実習 III (スポーツ障害)		3前		1							2		
理学療法治療学実習 IV (障害者スポーツ)		3後		1							1		
臨床理学療法技法演習(PBL)		3前	1				1	1	1				
小計(21科目)	-	18	7	0	5	4	2	1	0	11			
理学療法地域学	地域理学療法学	2後	2			1							
	地域理学療法学演習	3前	1								1		
	生活環境支援理学療法実習	3前	1			1							
	機能代償支援理学療法実習	3後	1				1			1			
	ヘルスプロモーション演習	3後	1			1							
小計(5科目)	-	6	0	0	2	1	0	1	0	1			
理学療法臨床実習	理学療法臨床実習 I	2後	1			5	5	2	1				
	理学療法臨床実習 II	3後	4			5	5	2	1				
	理学療法臨床実習 III	4前	18			5	5	2	1				
	小計(3科目)	-	23	0	0	5	5	2	1	0	0		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			2						
	理学療法概論演習	1後	1				1	1				
	理学療法セミナー I (PBL)	1後	1					1	1			
	理学療法セミナー II (PBL)	2前	1			2						
	臨床運動学	2後	1			1						
	理学療法管理学	3後	1			1						
	小計(6科目)	-	6	0	0	4	3	2	1	0	0	
理学療法評価学	理学療法評価学	1後	1				1					
	理学療法測定実習 I	2前	1				2					
	理学療法測定実習 II	2後	1				2					
	理学療法検査実習 I	2前	1				1		1			
	理学療法検査実習 II	2後	1				1		1			
	電気診断学	3前	1			1						
	小計(6科目)	-	6	0	0	1	4	0	1	0	0	
運動療法学	運動療法学	2前	2			2						
	運動療法学実習	2後	1			2						
	物理療法学	2前	2							1		
	物理療法学実習	2後	1			1			1		1	
	理学療法日常生活活動学	2前	2			1						
	理学療法日常生活活動学実習	2後	1			1		1				
	内部障害理学療法実習	3前	2			2	1					
	中枢神経障害理学療法実習	3前	1								1	
	脊髄障害理学療法実習	3前	1								1	
	運動器障害理学療法実習	3前	1					1			1	
	発達障害理学療法実習	3後	1				1					
	老年期障害理学療法実習	3後	1			1		1				
	義肢装具学演習	3後	1				1					
	理学療法技術実習 I (運動関節学の手技)	3前		1							1	
	理学療法技術実習 II (神経筋促進手技)	3後		1			1				1	
	理学療法技術実習 III (生体観察手技)	3前		1							1	
	理学療法治療学実習 I (脳障害)	3前		1							1	
	理学療法治療学実習 II (ICU)	3後		1							1	
	理学療法治療学実習 III (スポーツ障害)	3前		1							2	
	理学療法治療学実習 IV (障害者スポーツ)	3後		1							1	
	臨床理学療法技法演習(PBL)	3前	1				1	1	1			
小計(21科目)	-	18	7	0	5	4	2	1	0	11		
理学療法地域学	地域理学療法学	2後	2			1						
	地域理学療法学演習	3前	1								1	
	生活環境支援理学療法実習	3前	1			1						
	機能代償支援理学療法実習	3後	1				1			1		
	ヘルスプロモーション演習	3後	1			1						
小計(5科目)	-	6	0	0	2	1	0	1	0	1		
理学療法臨床実習	理学療法臨床実習 I	2後	1			5	5	2	1			
	理学療法臨床実習 II	3後	4			5	5	2	1			
	理学療法臨床実習 III	4前	18			5	5	2	1			
	小計(3科目)	-	23	0	0	5	5	2	1	0	0	

高知リハビリテーション専門職大学
【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業専門科目 専門基幹科目（作業療法学専攻）	作業療法学 基礎	作業療法概論	1前	1			1						
		生活活動と障害	1前	1				3					
		基礎作業学実習	1前	1				2					
		応用作業学実習	1後	1				2					
		作業療法セミナー	1後	1			2	3	3				
		作業療法管理学	4前	1				1				1	
	小計(6科目)	-	6	0	0	1	2	3	3	0	1		
	評価学 作業療法	基礎作業療法評価学	2前	2			1						
		作業療法評価実習Ⅰ(身体系)	2前	1				1	2				
		作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系)	2前	1			2						
		作業療法評価実習Ⅲ(発達系)	2後	1				1				1	
	小計(4科目)	-	5	0	0	1	2	2	2	0	1		
	作業療法学 治療学	作業分析学	2前	1			1						
		作業分析演習	2後	1			1	1					
		基礎作業療法治療学Ⅰ(身体系)	2後	2			1						
		基礎作業療法治療学Ⅱ(精神・認知系)	2後	2			1						
		作業療法日常生活活動学	2前	1				1					
		日常生活支援作業療法実習	2後	1				1					
義肢・装具作業療法実習		2後	1			1					1		
身体障害作業療法実習Ⅰ(中枢神経系)		3前	1			1			2				
身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)		3前	1				1	1			1		
身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)		3前	1								1		
精神障害作業療法実習Ⅰ		3前	1			2							
精神障害作業療法実習Ⅱ		3後	1			2							
老年期障害作業療法実習Ⅰ	3前	1			1								
老年期障害作業療法実習Ⅱ	3後	1			1	1							
発達障害作業療法実習	3前	1			1					1			
高次脳機能障害作業療法実習	3後	1			1		1			1			
臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL)	2前	1			1	1	2						
臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL)	3後	1			1	1	2						
小計(18科目)	-	20	0	0	1	3	3	3	0	5			
作業療法学 地域	地域作業療法学	2後	2				1						
	地域作業療法学演習	3前	1				1						
	生活環境支援作業療法実習	3前	1				1				1		
	機能代償支援作業療法実習	3後	1					1			2		
	就労支援作業療法演習	3後	1			1		1					
	生活活動マネジメント	3後	1				1						
	地域支援Ⅰ(余暇活動)	3後	1				2						
	地域支援Ⅱ(認知症)	3後	1			1	1						
小計(8科目)	-	6	3	0	0	2	3	2	0	3			
臨床実習 作業療法	作業療法臨床実習Ⅰ	2後	2				2	3	4				
	作業療法臨床実習Ⅱ	3後	6				2	3	4				
	作業療法臨床実習Ⅲ	4前	16				2	3	4				
	小計(3科目)	-	24	0	0	0	2	3	4	0	0		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目 専門基幹科目（作業療法学専攻）	作業療法学 基礎	作業療法概論	1前	1			1					
		生活活動と障害	1前	1				3				
		基礎作業学実習	1前	1				2				
		応用作業学実習	1後	1				2				
		作業療法セミナー	1後	1			2	3	3			
		作業療法管理学	4前	1				1				1
	小計(6科目)	-	6	0	0	1	2	3	3	0	1	
	評価学 作業療法	基礎作業療法評価学	2前	2			1					
		作業療法評価実習Ⅰ(身体系)	2前	1				1	2			
		作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系)	2前	1			2					
		作業療法評価実習Ⅲ(発達系)	2後	1				1				1
	小計(4科目)	-	5	0	0	1	2	2	2	0	1	
	作業療法学 治療学	作業分析学	2前	1			1					
		作業分析演習	2後	1			1	1				
		基礎作業療法治療学Ⅰ(身体系)	2後	2			1					
		基礎作業療法治療学Ⅱ(精神・認知系)	2後	2			1					
		作業療法日常生活活動学	2前	1				1				
		日常生活支援作業療法実習	2後	1				1				
義肢・装具作業療法実習		2後	1			1					1	
身体障害作業療法実習Ⅰ(中枢神経系)		3前	1			1			2			
身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)		3前	1				1	1			1	
身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)		3前	1								1	
精神障害作業療法実習Ⅰ		3前	1			2						
精神障害作業療法実習Ⅱ		3後	1			2						
老年期障害作業療法実習Ⅰ	3前	1			1							
老年期障害作業療法実習Ⅱ	3後	1			1	1						
発達障害作業療法実習	3前	1			1					1		
高次脳機能障害作業療法実習	3後	1			1		1			1		
臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL)	2前	1			1	1	2					
臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL)	3後	1			1	1	2					
小計(18科目)	-	20	0	0	1	3	3	3	0	5		
作業療法学 地域	地域作業療法学	2後	2				1					
	地域作業療法学演習	3前	1				1					
	生活環境支援作業療法実習	3前	1				1				1	
	機能代償支援作業療法実習	3後	1					1			2	
	就労支援作業療法演習	3後	1			1		1				
	生活活動マネジメント	3後	1				1					
	地域支援Ⅰ(余暇活動)	3後	1				2					
	地域支援Ⅱ(認知症)	3後	1			1	1					
小計(8科目)	-	6	3	0	0	2	3	2	0	3		
臨床実習 作業療法	作業療法臨床実習Ⅰ	2後	2				2	3	4			
	作業療法臨床実習Ⅱ	3後	6				2	3	4			
	作業療法臨床実習Ⅲ	4前	16				2	3	4			
	小計(3科目)	-	24	0	0	0	2	3	4	0	0	

高知リハビリテーション専門職大学
【認可時又は届出時】

卒業要件及び履修方法
<p>《理学療法学専攻》</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位を含め14単位以上、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位を含め15単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位をそれぞれ修得する。「基礎理学療法学」の6科目6単位から必修6単位、「理学療法評価学」の6科目6単位から必修6単位、「理学療法治療学」の21科目25単位から必修18単位を含め20単位以上、「地域理学療法学」の5科目6単位から必修6単位、「理学療法臨床実習」の3科目23単位から必修23単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「理学療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用理学療法学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上を修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>
<p>《作業療法学専攻》</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位を含め14単位以上、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位を含め15単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎作業療法学」の6科目6単位から必修6単位、「作業療法評価学」の4科目5単位から必修5単位、「作業療法治療学」の18科目20単位から必修20単位、「地域作業療法学」の8科目9単位から必修6単位を含め7単位以上、「作業療法臨床実習」の3科目24単位から必修24単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「作業療法展開科目群」の10科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用作業療法学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上を修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計141単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>
<p>《言語聴覚学専攻》</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位と「統計学」の2単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位と、「医学概論」「耳鼻咽喉科学」「形成外科学」「臨床歯科医学」の5単位を含め16単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎言語聴覚学」の25科目35単位から必修35単位、「言語聴覚療法評価学」の9科目10単位から必修10単位、「言語聴覚療法治療学」の4科目4単位から必修4単位、「言語聴覚療法臨床実習」の3科目20単位から必修20単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「言語聴覚療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用言語聴覚学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>

【令和元年度】

卒業要件及び履修方法
<p>《理学療法学専攻》</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位を含め14単位以上、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位を含め15単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位をそれぞれ修得する。「基礎理学療法学」の6科目6単位から必修6単位、「理学療法評価学」の6科目6単位から必修6単位、「理学療法治療学」の21科目25単位から必修18単位を含め20単位以上、「地域理学療法学」の5科目6単位から必修6単位、「理学療法臨床実習」の3科目23単位から必修23単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「理学療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用理学療法学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上を修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>
<p>《作業療法学専攻》</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位を含め14単位以上、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位を含め15単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎作業療法学」の6科目6単位から必修6単位、「作業療法評価学」の4科目5単位から必修5単位、「作業療法治療学」の18科目20単位から必修20単位、「地域作業療法学」の8科目9単位から必修6単位を含め7単位以上、「作業療法臨床実習」の3科目24単位から必修24単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「作業療法展開科目群」の10科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用作業療法学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上を修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計141単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>
<p>《言語聴覚学専攻》</p> <p>①基礎科目では、「人間の探求」、「社会の探求」、「地域の探求」、「自然の探求」、「健康の探求」の17科目25単位から必修11単位と「統計学」の2単位を含め17単位以上、「外国語の探求」の4科目5単位から必修2単位を含め3単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>②職業専門科目では、「基礎医学」の14科目15単位から必修5単位、「臨床医学」の16科目22単位から必修11単位と、「医学概論」「耳鼻咽喉科学」「形成外科学」「臨床歯科医学」の5単位を含め16単位以上、「保健医療福祉の理念」の4科目6単位から必修6単位、「基礎言語聴覚学」の25科目35単位から必修35単位、「言語聴覚療法評価学」の9科目10単位から必修10単位、「言語聴覚療法治療学」の4科目4単位から必修4単位、「言語聴覚療法臨床実習」の3科目20単位から必修20単位をそれぞれ修得する。</p> <p>③展開科目では、「言語聴覚療法展開科目群」の11科目20単位から必修20単位を修得する。</p> <p>④総合科目では、「応用言語聴覚学」の5科目6単位から必修3単位を含め4単位以上をそれぞれ修得する。</p> <p>⑤卒業要件単位数は合計140単位以上を修得する。</p> <p>(履修科目の登録上の上限:48単位/年間)</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

高知リハビリテーション専門職大学
 (1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・兼任教員の本業と予定が合わない理由により、「スポーツ心理学」の開講時期を「1後」から「1前」に変更
- ・専任教員の病気療養の理由により、「理学療法概論演習」の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・附帯事項2の作業療法学専攻における「福祉」を冠する展開科目については、科目の概要及び科目区分を踏まえた科目名称に改めることにより教育課程の概要の作業療法展開科目群の科目名を適切な名称に変更した。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
175 科目	48 科目	0 科目	223 科目	175 科目 [0]	48 科目 [0]	0 科目 [0]	223 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{223} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	運動場用地:高知学園 短期大学と共用 高知市福井町字宮の前 924-1他 距離:15km 車で約25分 ・運動場以外は 土佐市借用 (26,353.96㎡) 借用期間:20年以上		
	校舎敷地	8,181.05 ㎡	— ㎡	— ㎡	8,181.05 ㎡			
	運動場用地	— ㎡	24,025.00 ㎡	— ㎡	24,025.00 ㎡			
	小 計	8,181.05 ㎡	24,025.00 ㎡	— ㎡	32,206.05 ㎡			
	そ の 他	18,172.91 ㎡	— ㎡	— ㎡	18,172.91 ㎡			
合 計	26,353.96 ㎡	24,025.00 ㎡	— ㎡	50,378.96 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	開設年度の専共用面積 変更のため(元) 校舎面積は講堂 兼 体育館を除く		
		9,168.42 ㎡ 1,357.57 (-1,199.58 ㎡)	— ㎡ 6,672.57 (-5,954.58 ㎡)	— ㎡ 1,120.28 (-2,014.26 ㎡)	9,168.42 ㎡ (9,168.42 ㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	20 室	16 室	21 室	1 室 (補助職員 一人)	— 室 (補助職員 一人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体		
	リハビリテーション学部リハビリテーション学科			35 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書・視聴覚資料・機 械・器具購入数変更の ため(元)
	リハビリ テーション学部	29,900 [1,775] 28,900 [1,730] (27,500 (-1,715))	89 [13] (87 [11])	1 [1] (1 [1])	845 815 (-805)	2,769 2,696 (-2,659)	110 (78)	
	計	29,900 [1,775] 28,900 [1,730] (27,500 (-1,715))	89 [13] (87 [11])	1 [1] (1 [1])	845 815 (-805)	2,769 2,696 (-2,659)	110 (78)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	594.35 ㎡		114 席		50,000 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体	
	427.70 ㎡		該 当 な し					
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度	・図書については設備 購入費を第2年次まで 計画的に整備する為、 これに合わせて第2年 次まで記載した ・電子ジャーナルデー タベースの整備運営費 は図書費に含まない
		教員1人当り研究費等	300 千円	300 千円	図書購入費	6,500 千円	2,500 千円	
	共 同 研 究 費 等	2,000 千円	2,000 千円	設備購入費	63,426 千円	27,000 千円	— 千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
	1,550 千円	1,260 千円	1,260 千円	1,260 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入・手数料収入・雑収入等である					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	高知リハビリテーション専門職大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
リハビリテーション学部	4	150	-	600	-	0.88	-	平成31	高知県土佐市高岡町 乙1139-3	
リハビリテーション学科	4	150	-	600	-	0.88	-	平成31	同上	
理学療法学専攻	4	70	-	280	理学療法 学士 (専門職)	0.95	-	平成31	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	作業療法 学士 (専門職)	0.85	-	平成31	同上	
言語聴覚学専攻	4	40	-	160	言語聴覚 学士 (専門職)	0.77	-	平成31	同上	
大学全体	4	150	-	600	-	0.88	-	-	-	
大学の名称	高知学園短期大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
生活科学学科	2	80	-	160	短期大学士 (生活科学)	0.68	-	平成17	高知県高知市旭天神町 292番地26	
幼児保育学科	2	80	-	160	短期大学士 (幼児保育学)	0.99	-	平成17	同上	
医療衛生学科	3	80	-	240		0.95	-	平成18		
医療検査専攻	3	40	-	120	短期大学士 (臨床検査学)	1.09	-	平成18	同上	
歯科衛生専攻	3	40	-	120	短期大学士 (歯科衛生学)	0.83	-	平成18	同上	
看護学科	3	60	-	180	短期大学士 (看護学)	1.14	-	平成20	同上	
短期大学全体	3	300	-	740	-	0.88	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小嶋 裕 (69) <平成31年4月> 博士(介護福祉・ ケアマネジメント学)
		リハビリテーション概論 理学療法概論 地域理学療法学 ヘルスプロモーション演習 理学療法地域支援実習 理学療法総合演習Ⅱ 理学療法総合演習Ⅲ
専	教授	大倉 三洋 (70) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ 健康科学 運動生理学 運動生理学実習 リハビリテーション概論 理学療法概論 電気診断学 運動療法学 運動療法学実習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 理学療法総合演習Ⅰ
専	教授	高野 康夫 (69) <平成31年4月> 保健学博士
		解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小嶋 裕 (69) <平成31年4月> 博士(介護福祉・ ケアマネジメント学)
		リハビリテーション概論 理学療法概論 地域理学療法学 ヘルスプロモーション演習 理学療法地域支援実習 理学療法総合演習Ⅱ 理学療法総合演習Ⅲ
専	教授	大倉 三洋 (70) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ 健康科学 運動生理学 運動生理学実習 リハビリテーション概論 理学療法概論 電気診断学 運動療法学 運動療法学実習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 理学療法総合演習Ⅰ
専	教授	高野 康夫 (69) <平成31年4月> 保健学博士
		解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山崎 裕司 (55) <平成31年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習 臨床運動学 理学療法日常生活活動学 理学療法日常生活活動学実習 内部障害理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習
専	教授	辻 博明 (71) <平成31年4月> 博士(工学)
		地域課題研究Ⅱ 健康科学 運動生理学 運動生理学実習 生涯スポーツ論
専	教授	竹島 卓 (71) <平成31年4月> 博士(学術)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ データ分析論
専	教授	武内 和弘 (72) <平成31年4月> 歯学博士
		地域課題研究Ⅱ 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 機能性構音障害学実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	教授	玉井 健 (65) <平成31年4月> 博士(学術)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山崎 裕司 (55) <平成31年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習 臨床運動学 理学療法日常生活活動学 理学療法日常生活活動学実習 内部障害理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習
専	教授	辻 博明 (71) <平成31年4月> 博士(工学)
		地域課題研究Ⅱ 健康科学 運動生理学 運動生理学実習 生涯スポーツ論
専	教授	竹島 卓 (71) <平成31年4月> 博士(学術)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ データ分析論
専	教授	武内 和弘 (72) <平成31年4月> 歯学博士
		地域課題研究Ⅱ 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 機能性構音障害学実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	教授	玉井 健 (65) <平成31年4月> 博士(学術)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	清水 一 (71) <平成31年4月> Master of Science (米国)
		作業療法運動学演習 作業療法概論 基礎作業療法評価学 作業分析学 作業分析演習 基礎作業療法治療学Ⅰ(身体系) 身体障害作業療法実習Ⅰ (中枢神経系)
専	教授	相澤 徹 (56) <平成32年4月> 博士(医学)
		運動機能学実習 整形外科学
専	教授	柳澤 健 (71) <平成32年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ 運動療法学 運動療法学実習 理学療法技術実習Ⅱ(神経筋促通手技)※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ
専	教授	宮川 哲夫 (65) <平成33年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ 内部障害理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	清水 一 (71) <平成31年4月> Master of Science (米国)
		作業療法運動学演習 作業療法概論 基礎作業療法評価学 作業分析学 作業分析演習 基礎作業療法治療学Ⅰ(身体系) 身体障害作業療法実習Ⅰ (中枢神経系)
専	教授	相澤 徹 (56) <平成32年4月> 博士(医学)
		運動機能学実習 整形外科学
専	教授	柳澤 健 (71) <平成32年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ 運動療法学 運動療法学実習 理学療法技術実習Ⅱ(神経筋促通手技)※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ
専	教授	宮川 哲夫 (65) <平成33年4月> 博士(医学)
		地域課題研究Ⅱ 内部障害理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	石川 裕治 (57) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		地域課題研究Ⅱ コミュニケーション論 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 音声障害学実習 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※ 言語聴覚療法技術実習Ⅳ (発声発語・嚥下障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	准教授	稲田 勤 (56) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学) ※
		地域課題研究Ⅱ 言語発達学 重複障害学※ 学習障害・広汎性発達障害学※ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅰ (言語発達障害) 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅰ
専	准教授	片山 訓博 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 理学療法検査実習Ⅰ 理学療法検査実習Ⅱ 内部障害理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅰ 理学療法総合演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	石川 裕治 (57) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		地域課題研究Ⅱ コミュニケーション論 言語聴覚障害学総論Ⅰ※ 言語聴覚障害学総論Ⅱ※ 音声障害学実習 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※ 言語聴覚療法技術実習Ⅳ (発声発語・嚥下障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習
専	准教授	稲田 勤 (56) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学) ※
		地域課題研究Ⅱ 言語発達学 重複障害学※ 学習障害・広汎性発達障害学※ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法技術実習Ⅰ (言語発達障害) 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅰ
専	准教授	片山 訓博 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 理学療法検査実習Ⅰ 理学療法検査実習Ⅱ 内部障害理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅰ 理学療法総合演習Ⅱ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	明崎 禎輝 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法セミナーⅡ(PBL) 理学療法測定実習Ⅰ 理学療法測定実習Ⅱ 物理療法実習 機能代償支援理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法実習
専	准教授	足立 一 (50) ＜平成33年4月＞ 修士(学術) ※
		地域課題研究Ⅱ 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系) 精神障害作業療法実習Ⅰ 精神障害作業療法実習Ⅱ 就労支援作業療法実習※ 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 作業療法総合演習Ⅱ
専	講師	平松 真奈美 (56) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ 生活活動と障害 作業療法セミナー 作業療法管理学※ 老年期障害作業療法実習Ⅰ 老年期障害作業療法実習Ⅱ 地域作業療法実習 地域作業療法実習Ⅱ 生活活動マネジメント 地域支援Ⅱ(認知症) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法実習 作業療法総合演習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	明崎 禎輝 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法セミナーⅡ(PBL) 理学療法測定実習Ⅰ 理学療法測定実習Ⅱ 物理療法実習 機能代償支援理学療法実習※ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法実習
専	准教授	足立 一 (50) ＜平成33年4月＞ 修士(学術) ※
		地域課題研究Ⅱ 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系) 精神障害作業療法実習Ⅰ 精神障害作業療法実習Ⅱ 就労支援作業療法実習※ 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 作業療法総合演習Ⅱ
専	講師	平松 真奈美 (56) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ 生活活動と障害 作業療法セミナー 作業療法管理学※ 老年期障害作業療法実習Ⅰ 老年期障害作業療法実習Ⅱ 地域作業療法実習 地域作業療法実習Ⅱ 生活活動マネジメント 地域支援Ⅱ(認知症) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法実習 作業療法総合演習Ⅲ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	大塚 貴英 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ 生活活動と障害 基礎作業学実習 応用作業学実習 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅰ(身体系) 作業療法日常生活活動学 日常生活支援作業療法実習 身体障害作業療法実習Ⅱ (脊髄・運動器系)※ 生活環境支援作業療法実習※ 地域支援Ⅰ(余暇活動) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習
専	講師	篠田 かおり (43) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		地域課題研究Ⅱ 生活活動と障害 基礎作業学実習 応用作業学実習 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅲ(発達系)※ 作業分析演習 発達障害作業療法実習※ 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 地域支援Ⅰ(余暇活動) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅰ
専	講師	光内 梨佐 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(医科学)
		地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	大塚 貴英 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		地域課題研究Ⅱ 生活活動と障害 基礎作業学実習 応用作業学実習 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅰ(身体系) 作業療法日常生活活動学 日常生活支援作業療法実習 身体障害作業療法実習Ⅱ (脊髄・運動器系)※ 生活環境支援作業療法実習※ 地域支援Ⅰ(余暇活動) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習
専	講師	篠田 かおり (43) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		地域課題研究Ⅱ 生活活動と障害 基礎作業学実習 応用作業学実習 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅲ(発達系)※ 作業分析演習 発達障害作業療法実習※ 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 地域支援Ⅰ(余暇活動) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅰ
専	講師	光内 梨佐 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(医科学)
		地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 発声発語・嚥下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※ 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	高地 正音 (48) <平成31年4月> 修士(工学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	助教	石元 美知子 (63) <平成31年4月> 修士(文学)
		地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習 作業療法セミナー 作業分析演習 身体障害作業療法実習Ⅰ (中枢神経系) 身体障害作業療法実習Ⅱ (脊髄・運動器系)※ 高次脳機能障害作業療法実習※ 就労支援作業療法演習※ 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 高次脳機能障害学※ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅱ
専	助教	有光 一樹 (44) <平成31年4月> 修士(医科学)
		地域課題研究Ⅱ 運動生理学実習 運動機能学実習 作業療法運動学演習 機能代償支援理学療法実習※ 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅰ(身体系) 身体障害作業療法実習Ⅰ (中枢神経系) 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 機能代償支援作業療法実習※ 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	高地 正音 (48) <平成31年4月> 修士(工学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
専	助教	石元 美知子 (63) <平成31年4月> 修士(文学)
		地域課題研究Ⅱ 作業療法運動学演習 作業療法セミナー 作業分析演習 身体障害作業療法実習Ⅰ (中枢神経系) 身体障害作業療法実習Ⅱ (脊髄・運動器系)※ 高次脳機能障害作業療法実習※ 就労支援作業療法演習※ 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 高次脳機能障害学※ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅱ
専	助教	有光 一樹 (44) <平成31年4月> 修士(医科学)
		地域課題研究Ⅱ 運動生理学実習 運動機能学実習 作業療法運動学演習 機能代償支援理学療法実習※ 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅰ(身体系) 身体障害作業療法実習Ⅰ (中枢神経系) 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 機能代償支援作業療法実習※ 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	濱田 和範 (62) ＜平成31年4月＞ 各種学校卒
		地域課題研究Ⅱ 理学療法概論演習 義肢装具学演習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 義肢・装具作業療法実習※ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習
実専	准教授	稲岡 忠勝 (48) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		地域課題研究Ⅱ 運動生理学実習 理学療法セミナーⅡ (PBL) 理学療法測定実習Ⅰ 理学療法測定実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅱ
実専	講師	宮崎 登美子 (45) ＜平成31年4月＞ 学士(社会学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法セミナーⅠ (PBL) 理学療法日常生活活動学実習 臨床理学療法技法演習 (PBL) 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習
実専	助教	西野 愛 (41) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	濱田 和範 (62) ＜平成31年4月＞ 各種学校卒
		地域課題研究Ⅱ 理学療法概論演習 義肢装具学演習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 義肢・装具作業療法実習※ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習
実専	准教授	稲岡 忠勝 (48) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		地域課題研究Ⅱ 運動生理学実習 理学療法セミナーⅡ (PBL) 理学療法測定実習Ⅰ 理学療法測定実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅱ
実専	講師	宮崎 登美子 (45) ＜平成31年4月＞ 学士(社会学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法セミナーⅠ (PBL) 理学療法日常生活活動学実習 臨床理学療法技法演習 (PBL) 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習
実専	助教	西野 愛 (41) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	西野 愛 (40) <平成32年4月> 専修学校卒
		精神医学
実専	助教	櫻木 理恵 (41) <平成33年4月> 専修学校卒
		言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習
実(研)	教授	田頭 勝之 (59) <平成32年4月> 博士(医療福祉学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法管理学 老年期障害理学療法実習 生活環境支援理学療法実習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅱ
実(研)	准教授	重島 晃史 (42) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 基礎運動学 運動機能学実習 理学療法評価学 発達障害理学療法実習 臨床理学療法技法演習(PBL) 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	西野 愛 (40) <平成32年4月> 専修学校卒
		精神医学
実専	助教	櫻木 理恵 (41) <平成33年4月> 修士(医療福祉教育・管理学)
		言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習
実(研)	教授	田頭 勝之 (58) <平成31年4月> 博士(医療福祉学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法管理学 老年期障害理学療法実習 生活環境支援理学療法実習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅱ
実(研)	准教授	重島 晃史 (42) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅰ 地域課題研究Ⅱ 基礎運動学 運動機能学実習 理学療法評価学 発達障害理学療法実習 臨床理学療法技法演習(PBL) 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅲ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	准教授	辻 美和 (43) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系) 基礎作業療法治療学Ⅱ(精神・認知系) 精神障害作業療法実習Ⅰ 精神障害作業療法実習Ⅱ 老年期障害作業療法実習Ⅱ 高次脳機能障害作業療法実習※ 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 地域支援Ⅱ(認知症) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅲ
実(研)	講師	清岡 学 (58) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法概論演習 運動器障害理学療法実習 老年期障害理学療法実習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅰ
実(研)	講師	吉村 知佐子 (40) <平成31年4月> 修士(医科学)
		地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅲ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	准教授	辻 美和 (43) <平成31年4月> 博士(学術)
		地域課題研究Ⅱ 作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系) 基礎作業療法治療学Ⅱ(精神・認知系) 精神障害作業療法実習Ⅰ 精神障害作業療法実習Ⅱ 老年期障害作業療法実習Ⅱ 高次脳機能障害作業療法実習※ 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 地域支援Ⅱ(認知症) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習 作業療法総合演習Ⅲ
実(研)	講師	清岡 学 (58) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)
		地域課題研究Ⅱ 理学療法概論演習 運動器障害理学療法実習 老年期障害理学療法実習 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習 理学療法総合演習Ⅰ
実(研)	講師	吉村 知佐子 (41) <平成31年4月> 修士(医科学)
		地域課題研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ 言語聴覚療法セミナーⅡ 言語発達障害検査実習 言語発達障害評価実習 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ 言語聴覚療法地域支援実習 応用言語聴覚学演習 言語聴覚療法総合演習Ⅲ

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	助教	<p>笹村 聡 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)</p>
		<p>作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅰ(身体系) 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習</p>
実(研)	助教	<p>柏 智之 (40) ＜平成31年4月＞ 修士(学術) ※</p>
		<p>地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習 理学療法セミナーⅠ(PBL) 理学療法検査実習Ⅰ 理学療法検査実習Ⅱ 臨床理学療法技法演習(PBL) 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習</p>
兼任	講師	<p>中野 良哉 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(人間環境学・学校教育学)</p>
		<p>心理学 人間発達学 臨床心理学 発達心理学 心理測定法実習</p>
兼任	講師	<p>宮地 由美子 (66) ＜平成31年4月＞ 社会学士</p>
		<p>心理学</p>
兼任	講師	<p>松原 和廣 (72) ＜平成31年4月＞ 法学士</p>
		<p>教育学</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	助教	<p>笹村 聡 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)</p>
		<p>作業療法セミナー 作業療法評価実習Ⅰ(身体系) 臨床作業療法技法実習Ⅰ(PBL) 臨床作業療法技法実習Ⅱ(PBL) 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 作業療法地域支援実習 応用作業療法学演習</p>
実(研)	助教	<p>柏 智之 (40) ＜平成31年4月＞ 修士(学術) ※</p>
		<p>地域課題研究Ⅱ 理学療法運動学演習 理学療法セミナーⅠ(PBL) 理学療法検査実習Ⅰ 理学療法検査実習Ⅱ 臨床理学療法技法演習(PBL) 理学療法臨床実習Ⅰ 理学療法臨床実習Ⅱ 理学療法臨床実習Ⅲ 理学療法地域支援実習 応用理学療法学演習</p>
兼任	講師	<p>中野 良哉 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(人間環境学・学校教育学)</p>
		<p>心理学 人間発達学 臨床心理学 発達心理学 心理測定法実習</p>
兼任	講師	<p>宮地 由美子 (66) ＜平成31年4月＞ 社会学士</p>
		<p>心理学</p>
兼任	講師	<p>谷岡 博志 (62) ＜平成31年4月＞ 文学士</p>
		<p>教育学</p>

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	玉里 恵美子 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(社会学)
		社会学
兼任	講師	岡林 正幸 (66) ＜平成31年4月＞ 農学士
		生物学 物理学
兼任	講師	神家 一成 (66) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		健康とスポーツ
兼任	講師	矢野 宏光 (51) ＜平成31年4月＞ 博士(心理学)
		健康とスポーツ スポーツ心理学
兼任	講師	シヨン・バーゴイン Sean Burgoine (51) ＜平成31年4月＞ 修士(言語学)
		英会話
兼任	講師	前田 正也 (61) ＜平成31年4月＞ 法学士
		中国語
兼任	講師	田口 尚弘 (66) ＜平成31年4月＞ 理学博士
		解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
兼任	講師	大迫 洋治 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(獣医学)
		生理学Ⅰ(動物性機能)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	玉里 恵美子 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(社会学)
		社会学
兼任	講師	岡林 正幸 (67) ＜平成31年4月＞ 農学士
		生物学 物理学
兼任	講師	神家 一成 (66) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		健康とスポーツ
兼任	講師	矢野 宏光 (51) ＜平成31年4月＞ 博士(心理学)
		健康とスポーツ スポーツ心理学
兼任	講師	シヨン・バーゴイン Sean Burgoine (51) ＜平成31年4月＞ 修士(言語学)
		英会話
兼任	講師	前田 正也 (61) ＜平成31年4月＞ 法学士
		中国語
兼任	講師	田口 尚弘 (66) ＜平成31年4月＞ 理学博士
		解剖学Ⅰ(総論・神経系) 解剖学Ⅱ(内臓・脈管系) 解剖学Ⅲ(骨格系) 解剖学Ⅳ(筋系)
兼任	講師	大迫 洋治 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(獣医学)
		生理学Ⅰ(動物性機能)

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶 秀人 (68) ＜平成31年4月＞ 保健学博士、医学博士 農学博士
		生理学Ⅰ(動物性機能) 生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	奥谷 文乃 (59) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		生理学Ⅰ(動物性機能) 耳鼻咽喉科学 音声・言語系医学※
兼任	講師	矢吹 了一 (70) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		社会福祉概論
兼任	講師	宇都宮 千穂 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(経済学)
		土佐地域資源論
兼任	講師	江渕 聡 (47) ＜平成31年4月＞ 学士(社会学)
		地域福祉活動論
兼任	講師	村岡 正浩 (42) ＜平成31年4月＞ 専修学校卒
		マンガ概論
兼任	講師	関 和也 (40) ＜平成31年4月＞ 専修学校卒
		マンガ基礎実習
兼任	講師	三吉 史高 (66) ＜平成31年9月＞ 工学士
		数学
兼任	講師	藤原 憲一郎 (69) ＜平成31年9月＞ 博士(工学)
		統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶 秀人 (68) ＜平成31年4月＞ 保健学博士、医学博士 農学博士
		生理学Ⅰ(動物性機能) 生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	奥谷 文乃 (59) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		生理学Ⅰ(動物性機能) 耳鼻咽喉科学 音声・言語系医学※
兼任	講師	矢吹 了一 (71) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		社会福祉概論
兼任	講師	宇都宮 千穂 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(経済学)
		土佐地域資源論
兼任	講師	江渕 聡 (47) ＜平成31年4月＞ 学士(社会学)
		地域福祉活動論
兼任	講師	村岡 正浩 (43) ＜平成31年4月＞ 専修学校卒
		マンガ概論
兼任	講師	関 和也 (40) ＜平成31年4月＞ 専修学校卒
		マンガ基礎実習
兼任	講師	三吉 史高 (66) ＜平成31年9月＞ 工学士
		数学
兼任	講師	藤原 憲一郎 (69) ＜平成31年9月＞ 博士(工学)
		統計学

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	甲藤 彰男 (69) ＜平成31年9月＞ 体育学士
		健康とスポーツ
兼任	講師	大塚 智子 (46) ＜平成31年9月＞ 博士(獣医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	田中 健二郎 (37) ＜平成31年9月＞ 博士(医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	吾妻 美子 (70) ＜平成31年9月＞ 医学博士
		医学概論 病理学
兼任	講師	池 聡 (31) ＜平成31年9月＞ 学士(人間科学)
		失語症学 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 言語聴覚療法総合演習Ⅱ
兼任	講師	中野 良治 (43) ＜平成31年9月＞ 修士(農学)
		社会的企業論※
兼任	講師	田上 純一 (35) ＜平成31年9月＞ 学士(作業療法学)
		社会的企業論※
兼任	講師	松井 大洲 (72) ＜平成31年9月＞ 短期大学卒
		活字デザイン論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	甲藤 彰男 (69) ＜平成31年9月＞ 体育学士
		健康とスポーツ
兼任	講師	大塚 智子 (46) ＜平成31年9月＞ 博士(獣医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	田中 健二郎 (37) ＜平成31年9月＞ 博士(医学)
		生理学Ⅱ(植物性機能)
兼任	講師	吾妻 美子 (70) ＜平成31年9月＞ 医学博士
		医学概論 病理学
兼任	講師	池 聡 (31) ＜平成31年9月＞ 学士(人間科学)
		失語症学 高次脳機能障害学※ 失語・高次脳機能障害検査実習 発声発語・嚥下障害検査実習 言語聴覚療法総合演習Ⅱ
兼任	講師	中野 良治 (43) ＜平成31年9月＞ 修士(農学)
		社会的企業論※
兼任	講師	田上 純一 (35) ＜平成31年9月＞ 学士(作業療法学)
		社会的企業論※
兼任	講師	松井 大洲 (72) ＜平成31年9月＞ 短期大学卒
		活字デザイン論

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 琴栄 (42) ＜平成32年4月＞ 修士(音楽療法)
		医学英語
兼任	講師	倉田 浩充 (61) ＜平成32年4月＞ 医学博士
		臨床神経学
兼任	講師	加賀野井 聖二 (52) ＜平成32年4月＞ 修士(学術)
		精神医学
兼任	講師	竹田 伸也 (46) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		精神医学
兼任	講師	宮本 寛 (57) ＜平成32年4月＞ 医学士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	竹村 朝海 (45) ＜平成32年4月＞ 修士(教育学)
		臨床心理学
兼任	講師	吉岡 孝紘 (31) ＜平成32年4月＞ 修士(臨床心理)
		臨床心理学
兼任	講師	山本 双一 (70) ＜平成32年4月＞ 修士(心身健康学)
		物理療法学 物理療法学実習 運動器障害理学療法実習 リーダーシップ論
兼任	講師	小林 泰輔 (58) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		聴覚系医学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 琴栄 (42) ＜平成32年4月＞ 修士(音楽療法)
		医学英語
兼任	講師	倉田 浩充 (61) ＜平成32年4月＞ 医学博士
		臨床神経学
兼任	講師	加賀野井 聖二 (52) ＜平成32年4月＞ 修士(学術)
		精神医学
兼任	講師	竹田 伸也 (46) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		精神医学
兼任	講師	宮本 寛 (57) ＜平成32年4月＞ 医学士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	竹村 朝海 (45) ＜平成32年4月＞ 修士(教育学)
		臨床心理学
兼任	講師	吉岡 孝紘 (31) ＜平成32年4月＞ 修士(臨床心理)
		臨床心理学
兼任	講師	山本 双一 (70) ＜平成32年4月＞ 修士(心身健康学)
		物理療法学 物理療法学実習 運動器障害理学療法実習 リーダーシップ論
兼任	講師	小林 泰輔 (58) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		聴覚系医学※

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 広明 (35) ＜平成32年4月＞ 学士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	奥村 訓代 (66) ＜平成32年4月＞ 文学修士
		言語学 音声学
兼任	講師	井上 真理子 (36) ＜平成32年4月＞ 専修学校卒
		聴覚障害学 聴覚検査学 聴覚障害検査実習
兼任	講師	山本 和代 (69) ＜平成32年4月＞ 修士(教育学)
		学校保健論
兼任	講師	野村 卓生 (43) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		産業保健論
兼任	講師	島村 和典 (71) ＜平成32年4月＞ 工学博士
		企業論
兼任	講師	坊岡 正之 (67) ＜平成32年4月＞ 博士(医療工学)
		福祉工学基礎論
兼任	講師	中本 雅彦 (53) ＜平成32年4月＞ 社会学士
		地域福祉論
兼任	講師	大倉 美知子 (58) ＜平成32年4月＞ 短期大学卒
		視覚デザイン概論 カラーコミュニケーション概論 視覚伝達デザイン論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 広明 (35) ＜平成32年4月＞ 学士(医学)
		聴覚系医学※
兼任	講師	奥村 訓代 (66) ＜平成32年4月＞ 文学修士
		言語学 音声学
兼任	講師	井上 真理子 (36) ＜平成32年4月＞ 専修学校卒
		聴覚障害学 聴覚検査学 聴覚障害検査実習
兼任	講師	山本 和代 (69) ＜平成32年4月＞ 修士(教育学)
		学校保健論
兼任	講師	野村 卓生 (43) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		産業保健論
兼任	講師	島村 和典 (71) ＜平成32年4月＞ 工学博士
		企業論
兼任	講師	坊岡 正之 (67) ＜平成32年4月＞ 博士(医療工学)
		ロボット技術活用論
兼任	講師	中本 雅彦 (53) ＜平成32年4月＞ 社会学士
		地域生活とサービス
兼任	講師	大倉 美知子 (58) ＜平成32年4月＞ 短期大学卒
		視覚デザイン概論 カラーコミュニケーション概論 視覚伝達デザイン論

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	石元 篤雄 (59) ＜平成32年9月＞ 医学士
		内科学
兼任	講師	小野 歩 (63) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		内科学
兼任	講師	田中 肇 (56) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		内科学
兼任	講師	竹中 奈奈 (41) ＜平成32年9月＞ 学士(医学)
		内科学
兼任	講師	田邊 裕久 (62) ＜平成32年9月＞ 医学士
		臨床神経学
兼任	講師	武市 知己 (56) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		小児科学
兼任	講師	倉繁 迪 (76) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		小児科学
兼任	講師	小倉 英郎 (74) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		小児科学
兼任	講師	小谷 治子 (57) ＜平成32年9月＞ 医学士
		小児科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	石元 篤雄 (59) ＜平成32年9月＞ 医学士
		内科学
兼任	講師	小野 歩 (63) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		内科学
兼任	講師	田中 肇 (56) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		内科学
兼任	講師	竹中 奈奈 (41) ＜平成32年9月＞ 学士(医学)
		内科学
兼任	講師	田邊 裕久 (62) ＜平成32年9月＞ 医学士
		臨床神経学
兼任	講師	武市 知己 (56) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		小児科学
兼任	講師	倉繁 迪 (76) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		小児科学
兼任	講師	小倉 英郎 (74) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		小児科学
兼任	講師	小谷 治子 (57) ＜平成32年9月＞ 医学士
		小児科学

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉岡 和哉 (38) ＜平成32年9月＞ 修士(作業療法学)
		作業療法評価実習Ⅲ(発達系)※ 発達障害作業療法実習※
兼任	講師	仲木 右京 (59) ＜平成32年9月＞ 専修学校卒
		義肢・装具作業療法実習※
兼任	講師	兵頭 政光 (61) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		音声・言語系医学※
兼任	講師	長尾 明日香 (34) ＜平成32年9月＞ 学士(医学)
		音声・言語系医学※
兼任	講師	世木 秀明 (64) ＜平成32年9月＞ 工学修士
		音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	鈴木 孝典 (45) ＜平成32年9月＞ 博士(人間学)
		精神障害福祉論
兼任	講師	竹下 誠一 (65) ＜平成32年9月＞ 法学士
		情報メディア学入門
兼任	講師	竹崎 久美子 (60) ＜平成33年4月＞ 博士(看護学)
		生命倫理※
兼任	講師	渡邊 聡子 (54) ＜平成33年4月＞ 博士(看護学)
		生命倫理※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉岡 和哉 (38) ＜平成32年9月＞ 修士(作業療法学)
		作業療法評価実習Ⅲ(発達系)※ 発達障害作業療法実習※
兼任	講師	仲木 右京 (59) ＜平成32年9月＞ 専修学校卒
		義肢・装具作業療法実習※
兼任	講師	兵頭 政光 (61) ＜平成32年9月＞ 医学博士
		音声・言語系医学※
兼任	講師	長尾 明日香 (34) ＜平成32年9月＞ 学士(医学)
		音声・言語系医学※
兼任	講師	世木 秀明 (64) ＜平成32年9月＞ 工学修士
		音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	鈴木 孝典 (45) ＜平成32年9月＞ 博士(人間学)
		精神障害者の援助とネットワーク
兼任	講師	竹下 誠一 (65) ＜平成32年9月＞ 法学士
		情報メディア学入門
兼任	講師	竹崎 久美子 (60) ＜平成33年4月＞ 博士(看護学)
		生命倫理※
兼任	講師	渡邊 聡子 (54) ＜平成33年4月＞ 博士(看護学)
		生命倫理※

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	秋山 謙三 (72) <平成33年4月> 歯学士
		形成外科学 臨床歯科医学
兼任	講師	宮川 和之 (56) <平成33年4月> 学士(保健衛生学)
		画像診断学
兼任	講師	渡邊 慶子 (65) <平成33年4月> 博士(生活科学)
		臨床栄養学
兼任	講師	田所 茂彦 (68) <平成33年4月> 薬学士
		臨床薬理学
兼任	講師	柚村 誠 (65) <平成33年4月> 体育学士
		救急管理実習
兼任	講師	小笠原 正 (61) <平成33年4月> 学士(社会学)
		中枢神経障害理学療法実習
兼任	講師	佐々木 貴之 (40) <平成33年4月> 学士(社会学)
		脊髄障害理学療法実習
兼任	講師	板場 英行 (70) <平成33年4月> 学士(教養)
		理学療法技術実習Ⅰ(運動関節学の手技)
兼任	講師	西村 敦司 (50) <平成33年4月> 専修学校卒
		理学療法技術実習Ⅲ(生体観察手技)

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	秋山 謙三 (72) <平成33年4月> 歯学士
		形成外科学 臨床歯科医学
兼任	講師	宮川 和之 (56) <平成33年4月> 学士(保健衛生学)
		画像診断学
兼任	講師	渡邊 慶子 (65) <平成33年4月> 博士(生活科学)
		臨床栄養学
兼任	講師	田所 茂彦 (68) <平成33年4月> 薬学士
		臨床薬理学
兼任	講師	柚村 誠 (65) <平成33年4月> 体育学士
		救急管理実習
兼任	講師	小笠原 正 (61) <平成33年4月> 学士(社会学)
		中枢神経障害理学療法実習
兼任	講師	佐々木 貴之 (40) <平成33年4月> 学士(社会学)
		脊髄障害理学療法実習
兼任	講師	板場 英行 (70) <平成33年4月> 学士(教養)
		理学療法技術実習Ⅰ(運動関節学の手技)
兼任	講師	西村 敦司 (50) <平成33年4月> 専修学校卒
		理学療法技術実習Ⅲ(生体観察手技)

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岩崎 史明 (37) ＜平成33年4月＞ 修士(医科学)
		理学療法治療学実習Ⅰ(脳障害)
兼任	講師	森本 哲郎 (74) ＜平成33年4月＞ 医学士
		理学療法治療学実習Ⅲ(スポーツ障害)※
兼任	講師	山田 義久 (62) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		理学療法治療学実習Ⅲ(スポーツ障害)※
兼任	講師	川淵 正敬 (48) ＜平成33年4月＞ 学士(社会学)
		地域理学療法学演習
兼任	講師	佐藤 信治 (48) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)※
兼任	講師	金久 雅史 (39) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)
兼任	講師	笹岡 和泉 (49) ＜平成33年4月＞ 学士(芸術学)
		生活環境支援作業療法実習※
兼任	講師	津江 美和 (56) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		学習・認知心理学
兼任	講師	大崎 聡 (61) ＜平成33年4月＞ 経済学士
		言語発達障害学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岩崎 史明 (37) ＜平成33年4月＞ 修士(医科学)
		理学療法治療学実習Ⅰ(脳障害)
兼任	講師	森本 哲郎 (74) ＜平成33年4月＞ 医学士
		理学療法治療学実習Ⅲ(スポーツ障害)※
兼任	講師	山田 義久 (62) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		理学療法治療学実習Ⅲ(スポーツ障害)※
兼任	講師	川淵 正敬 (48) ＜平成33年4月＞ 学士(社会学)
		地域理学療法学演習
兼任	講師	佐藤 信治 (48) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)※
兼任	講師	金久 雅史 (39) ＜平成33年4月＞ 専修学校卒
		身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)
兼任	講師	笹岡 和泉 (49) ＜平成33年4月＞ 学士(芸術学)
		生活環境支援作業療法実習※
兼任	講師	津江 美和 (56) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		学習・認知心理学
兼任	講師	大崎 聡 (61) ＜平成33年4月＞ 経済学士
		言語発達障害学

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	濱崎 佳瑞子 (49) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		学習障害・広汎性発達障害学※
兼任	講師	藤原 百合 (71) ＜平成33年4月＞ 博士(学術)
		器質性構音障害学実習
兼任	講師	塩見 将志 (49) ＜平成33年4月＞ 博士(医学)
		吃音学
兼任	講師	土居 奈央 (33) ＜平成33年4月＞ 学士(人間科学)
		嚙下障害学実習※ 発声発語・嚙下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習IV (発声発語・嚙下障害)※
兼任	講師	益田 慎 (57) ＜平成33年4月＞ 博士(医学)
		嚙下障害学実習※
兼任	講師	秋朝 幸二 (56) ＜平成33年4月＞ 短期大学卒
		補聴器・人工内耳学
兼任	講師	坂本 泰祥 (60) ＜平成33年4月＞ 博士(学術)
		経営組織論
兼任	講師	前田 和範 (35) ＜平成33年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		マーケティング論
兼任	講師	西岡 啓二郎 (72) ＜平成33年4月＞ 商学士
		会計学総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	濱崎 佳瑞子 (49) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		学習障害・広汎性発達障害学※
兼任	講師	藤原 百合 (71) ＜平成33年4月＞ 博士(学術)
		器質性構音障害学実習
兼任	講師	塩見 将志 (49) ＜平成33年4月＞ 博士(医学)
		吃音学
兼任	講師	土居 奈央 (33) ＜平成33年4月＞ 学士(人間科学)
		嚙下障害学実習※ 発声発語・嚙下障害評価実習※ 言語聴覚療法技術実習IV (発声発語・嚙下障害)※
兼任	講師	益田 慎 (57) ＜平成33年4月＞ 博士(医学)
		嚙下障害学実習※
兼任	講師	秋朝 幸二 (56) ＜平成33年4月＞ 短期大学卒
		補聴器・人工内耳学
兼任	講師	坂本 泰祥 (60) ＜平成33年4月＞ 博士(学術)
		経営組織論
兼任	講師	前田 和範 (35) ＜平成33年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		マーケティング論
兼任	講師	西岡 啓二郎 (72) ＜平成33年4月＞ 商学士
		会計学総論

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	遠山 真世 (46) ＜平成33年4月＞ 博士(社会福祉学)
		障害者福祉論
兼任	講師	大村 誠 (62) ＜平成33年4月＞ 博士(理学)
		地域防災論
兼任	講師	加藤 誠之 (52) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		更生保護制度論
兼任	講師	是永 かな子 (47) ＜平成33年4月＞ 博士(教育学)
		特別支援教育論
兼任	講師	西内 章 (48) ＜平成33年4月＞ 博士(臨床福祉学)
		対人援助技術論※
兼任	講師	西梅 幸治 (43) ＜平成33年4月＞ 博士(福祉社会学)
		対人援助技術論※
兼任	講師	森本 忠彦 (81) ＜平成33年4月＞ 教育学士
		広告論
兼任	講師	柳本 伸二 (63) ＜平成33年4月＞ 商学士
		企業広報活動論
兼任	講師	吉岡 一洋 (46) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		広告デザイン論
兼任	講師	富田 浩 (54) ＜平成33年9月＞ 博士(理学療法学)
		理学療法技術実習Ⅱ(神経筋促通手技)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	遠山 真世 (46) ＜平成33年4月＞ 博士(社会福祉学)
		障害者の社会環境と制度
兼任	講師	大村 誠 (62) ＜平成33年4月＞ 博士(理学)
		地域防災論
兼任	講師	加藤 誠之 (52) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		更生保護制度論
兼任	講師	是永 かな子 (47) ＜平成33年4月＞ 博士(教育学)
		特別支援教育論
兼任	講師	西内 章 (48) ＜平成33年4月＞ 博士(臨床福祉学)
		対人援助技術論※
兼任	講師	西梅 幸治 (43) ＜平成33年4月＞ 博士(福祉社会学)
		対人援助技術論※
兼任	講師	森本 忠彦 (81) ＜平成33年4月＞ 教育学士
		広告論
兼任	講師	柳本 伸二 (63) ＜平成33年4月＞ 商学士
		企業広報活動論
兼任	講師	吉岡 一洋 (46) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		広告デザイン論
兼任	講師	富田 浩 (54) ＜平成33年9月＞ 博士(理学療法学)
		理学療法技術実習Ⅱ(神経筋促通手技)※

高知リハビリテーション専門職大学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	前田 秀博 (55) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		理学療法治療学実習Ⅱ (ICU)
兼任	講師	小林 順一 (69) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		理学療法治療学実習Ⅳ (障害者スポーツ)
兼任	講師	筒井 裕介 (41) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		高次脳機能障害作業療法実習※
兼任	講師	土居 道康 (45) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		機能代償支援作業療法実習※
兼任	講師	篠森 丞 (41) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		機能代償支援作業療法実習※
兼任	講師	谷本 愛裕美 (38) ＜平成33年9月＞ 学士(人間科学)
		重複障害学※
兼任	講師	北川 純平 (41) ＜平成33年9月＞ 学士(社会福祉学)
		運動障害性構音障害学実習
兼任	講師	井上 浩明 (45) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※
兼任	講師	川上 理子 (54) ＜平成33年9月＞ 博士(看護学)
		地域包括ケア論※
兼任	講師	森下 幸子 (60) ＜平成33年9月＞ 修士(看護学)
		地域包括ケア論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	前田 秀博 (55) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		理学療法治療学実習Ⅱ (ICU)
兼任	講師	小林 順一 (69) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		理学療法治療学実習Ⅳ (障害者スポーツ)
兼任	講師	筒井 裕介 (41) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		高次脳機能障害作業療法実習※
兼任	講師	土居 道康 (45) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		機能代償支援作業療法実習※
兼任	講師	篠森 丞 (41) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		機能代償支援作業療法実習※
兼任	講師	谷本 愛裕美 (38) ＜平成33年9月＞ 学士(人間科学)
		重複障害学※
兼任	講師	北川 純平 (41) ＜平成33年9月＞ 学士(社会福祉学)
		運動障害性構音障害学実習
兼任	講師	井上 浩明 (45) ＜平成33年9月＞ 専修学校卒
		言語聴覚療法技術実習Ⅱ (高次脳機能障害)※
兼任	講師	川上 理子 (54) ＜平成33年9月＞ 博士(看護学)
		地域包括ケア論※
兼任	講師	森下 幸子 (60) ＜平成33年9月＞ 修士(看護学)
		地域包括ケア論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	上村 浩 (54) ＜平成33年9月＞ 博士(商学)
		経営管理論
兼任	講師	永野 正展 (73) ＜平成33年9月＞ 博士(工学)
		起業論
兼任	講師	鶴見 隆正 (73) ＜平成34年4月＞ 博士(医学)
		チーム連携論
兼任	講師	矢野 勇介 (45) ＜平成34年4月＞ 専修学校卒
		作業療法管理学※
兼任	講師	西田 香利 (61) ＜平成34年4月＞ 短期大学卒
		言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※
兼任	講師	先川 信一郎 (72) ＜平成34年9月＞ 学士(工学)
		国際関係論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	上村 浩 (54) ＜平成33年9月＞ 博士(商学)
		経営管理論
兼任	講師	永野 正展 (73) ＜平成33年9月＞ 博士(工学)
		起業論
兼任	講師	鶴見 隆正 (73) ＜平成34年4月＞ 博士(医学)
		チーム連携論
兼任	講師	矢野 勇介 (45) ＜平成34年4月＞ 専修学校卒
		作業療法管理学※
兼任	講師	西田 香利 (61) ＜平成34年4月＞ 短期大学卒
		言語聴覚療法技術実習Ⅲ(失語)※
兼任	講師	先川 信一郎 (72) ＜平成34年9月＞ 学士(工学)
		国際関係論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・兼任講師が都合により辞退したため、「教育学」の兼任講師を新たに配置した。
- ・附帯事項2より教育課程の概要 展開科目「作業療法展開科目群」の福祉に関する科目の科目名の変更に伴い該当する担当教員の科目名も変更した。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
24 名	12 名	10 名	5 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数【専門職大学等】

設置時の計画					現在(報告時)の状況				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
13	9	8	6	36	10	8	8	4	30
(10)	(8)	(8)	(4)	(30)					
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))		
24	5	7			20	3	7		
(20)	(3)	(7)							
現在(報告時)の完成年度時の状況					現在(報告時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(C)	教授	准教授	講師	助教	計(D)
13	9	8	6	36	13	9	8	6	36
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))		
24	5	7			24	5	7		
[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「**現在(報告時)の完成年度時の状況**」には、「**現在(報告時)の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	8 名	12 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{36}{36} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{8}{30} = \boxed{26.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{36} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の実施計画
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p> <p style="text-align: center;">遵守事項</p>	<p>1) 全般的な設置計画の検討 ・設置計画を確実に履行できるように、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めている。</p> <p><教職員の能力向上> ・四国地区の35の国公立大学・短期大学・専門職大学（四国地区に一部の学部等を置く大学を含む）及び高等専門学校によって構成される「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」に加盟した。（平成31年度） （別添資料 I - 1、2 参照）</p> <p><委員会・諸規程の整備> ・専門職大学の目的に照らし、充実した教育研究活動ならびにその水準を一層向上させるため、各種委員会の設置ならびに諸規程の整備を行った。（平成31年度） （別添資料 I - 3 参照）</p>	<p><教職員の能力向上> ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」で行う研修に、本学の教職員が参加する。令和元年度）</p> <p>・FD委員会とSD委員会により組織的に授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究、学習支援、教員の研究活動向上等を計画的に実施する。</p> <p>・教育研究等の状況について自己点検・評価に取り組み、結果を公表し、大学として社会への説明責任を果たすとともに、社会の評価を受け、管理運営方法、教育内容や教育方法等を、継続的に改善していくことによって、より高い教育研究水準に到達できるよう努める。</p> <p>・教育課程連携協議会の意見にもとづき、学内で検討された授業科目の編成や授業内容及び方法などの改善については、教育課程に反映させて実施するよう努める。</p>
		<p>2) 大学職員の増員 <事務局員の増員> ・専任職員の数認可時の8名から3名増員し、11名とした。この変更に伴い、設置認可申請書類中、基本計画書（別記様式第2号（その1の1））の「教員以外の職員の概要」の記載が変更となる。 （平成31年度） （別添資料 I - 4 参照）</p>	<p>・完成年度に向けて、平成31年度より、さらに2名の専任職員の増員を計画している。</p>

		<p><専任教員の増員> ・学科長を、他大学で学科長経験のある本学専任教員である教授に改めたため、当該教員の就任予定年月を平成32年4月1日から1年前倒し平成31年4月1日としたため、開学時の専任教員数を29名から30名に変更した。 (平成31年度) (別添資料 I - 4 参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
		<p>3) 教育課程連携協議会構成員には、各専攻長を置くことにしていることから、作業療法学専攻長の変更に伴い、構成員を変更した。 (別添資料 I - 5 参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
		<p>4) 教育課程(配当年次・前後期)の変更 <スポーツ心理学> ・認可時「1年次後期」に配置していたが、兼任教員の本業により時間割調整ができない理由により、「1年次前期」に変更となった。令和2年度以降も開講時期は「1年次前期」のままとする。 開講時期の変更は同一学年内での変更であり、他の健康課題を学修する科目履修との順次性もないため、教育課程の体系性への影響はない。また、学生に対しても、あらかじめ十分に説明するため教育効果に支障は生じない。 (平成31年度) (別添資料 I - 6、7、8 参照)</p> <p><理学療法概論演習> ・認可時「1年次前期」に配置していたが、専任教員の病氣療養(平成31年4月～令和元年6月)の理由により、令和元年度のみ開講時期を「1年次後期」に変更した。「理学療法概論演習」も、同一学年内での変更であり、教育課程の体系性への影響はなく、学生に対しても、十分に説明を行うため教育効果に支障は生じない。 (平成31年度) (別添資料 I - 7、8、9 参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>

		<p>5) 定員確保の取り組み 平成31年4月の入学者が定員に満たなかったため、原因を検討し、学生確保の方策について、一部変更した。</p> <p><募集活動> ・昨年度の募集活動開始時期は平成30年10月の認可以降であったため、令和2年度以降は早期に実施、高校訪問やオープンキャンパス、学校説明会を通して、推薦選考・AO入試・一般入試の日程等の情報提供を効率的に行うものとした。</p> <p>・高等学校への訪問について、四国4県の各高等学校には複数回、岡山県、兵庫県高等学校にも訪問し説明を行う。オープンキャンパスの実施時期を10月までに変更した。 (令和元年度) (別添資料10、11、12、13参照)</p> <p><専門職大学の認知度の向上> ・専門職大学に対する高等学校の進路担当教員の認知度が低かったことから、専門職大学及び高知リハビリテーション専門職大学について理解を深めてもらうため、高等学校教員に対する説明会については、学校法人の二つの大学の合同開催から本学単独での開催、開催場所も高知県内から四国4県へと変更した。 (令和元年度) (別添資料I-14参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
		<p>6) 臨床実習計画 <履修条件の整備> ①3年次に配置している各専攻の臨床実習Ⅱにおいて、「2年次末までに修得しなければならないすべての科目を修得済みであること」を追加し、4年次に配置している各専攻の臨床実習Ⅲと同様に、配当年次前までの学年に配置された科目の修得を済ませておくこととした。 (別添資料I-15、16、17参照)</p> <p>②4年次の臨床実習Ⅲの履修前の「客観的臨床能力試験(OSCE)」の実施時期を、理学療法学専攻と作業療法学専攻は「4月」、言語聴覚学専攻は「5月」と、明確にした。 (別添資料I-18、19、20参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>

			<p><事前の学修の整備> ・各専攻の臨床実習Ⅰにおいて、「理学療法セミナーⅡ（PBL）」、「臨床作業療法技法Ⅰ（PBL）」、「言語聴覚障害学総論Ⅰ」の復習をしておくことを追加した。 （別添資料Ⅰ－21、22、23参照） 各専攻の臨床実習Ⅱにおいて、「臨床理学療法技法演習（PBL）」、「臨床作業療法技法Ⅱ（PBL）」、「言語聴覚療法技術演習Ⅰ（言語発達障害）」「言語聴覚療法技術演習Ⅱ（高次脳機能障害）」の科目の復習をしておくことを追加した。 （別添資料Ⅰ－15、16、17参照） 臨床場面を想定した技能実習を行う科目の復習を、事前の予習内容とした。 （平成31年度）</p>	
			<p>7) 施設・設備の整備 <校舎各室の使用用途> ・校舎の構造上の改築困難な室があったこと、大学運営に必要な事務局員が増加したこと、学生への利便性が不足していたことの3点により、校舎の総面積を減じることなく、計画していた校舎の各室の用途を、教育研究上および学生の教育上の支障がないように変更した。（平成31年度） （※7その他全般的事項 (1) 設置計画変更事項等 ①施設・設備の別添資料①参照）</p> <p><大学と専門学校の教室使用計画> ・学生の職業に対する興味・関心を高めるため、大学と専門学校の実習室の使用計画を変更し、入学時より全実習室を使用できるように変更した。大学と専門学校との実習室使用が重複しないよう時間割を計画調整した。（平成31年度） （※7その他全般的事項 (1) 設置計画変更事項等 ②大学と専門学校の教室使用計画の別添資料②一表および②図参照）</p>	<p>履行済 「該当なし」</p>

			<p>・各階に大学と専門学校の講義室が混在すると、短時間に多くの学生が階段を使用するため混雑と危険が生じる可能性が予測され、また大学の学生同士の交流機会の減少が懸念されたことから、大学または専門学校の講義室をまとめて、階による区分に変更した。</p> <p>・講義室と同様に、更衣室も大学または専門学校を、階による区分に変更した。</p> <p>・使用計画は下記の通りである。 2階を大学、3・4・5階を専門学校（令和元年度） 2・3階を大学、4・5階を専門学校（令和2年度） 2・3・4階を大学、5階を専門学校（令和3年度） （平成31年度） （※7 その他全般的事項 ① 設置計画変更事項等 ② 大学と専門学校の教室使用計画の別添資料②-表および②図参照）</p>	
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>2. 作業療法学専攻における「福祉」を冠する展開科目については、科目の概要及び科目区分を踏まえた科目名称に改めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・下記の通り科目名称を改めた。 「福祉工学基礎論」は「ロボット技術活用論」とした。 「地域福祉論」は「地域生活とサービス」とした。 「精神障害福祉論」は「精神障害者の援助とネットワーク」とした。 「障害者福祉論」は「障害者の社会環境と制度」とした。（平成31年度）</p>	<p>履行済 「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>3. 「マンガ基礎実習」については成績評価方法が課題提出のみとなっているため、授業の到達目標を適切に確認する評価方法を設定すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・到達目標を確認するものとして、下記の評価方法を設定した。 ①授業において作成する2作品から、実技面として、構成の理解度15%、描き方の理解度15%、完成度20%の計50%を評価する。 ②作成したマンガを用い学生同士でコミュニケーションを体験することを授業の目的に掲げていることから、7回と11回の「ストーリー構成」、15回の「ストーリーマンガを用いたコミュニケーション」でプレゼンテーションを行い、50%として評価する。（平成31年度） （別添資料Ⅱ参照）</p>	<p>履行済 「該当なし」</p>

高知リハビリテーション専門職大学

<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>4. 臨床実習の成績評価について、筆記試験に加え、口頭試験も踏まえた実技試験を実施すること。また、実習施設の指導者の評価を参考とするのは差支えないが、単位認定する際の成績評価は大学として行う必要があるため、シラバスの成績評価方法は適切に改めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・「臨床実習Ⅱ」における成績評価項目である「臨床実習Ⅱ判定試験」の内容を、「筆記ならびに実技・口頭試験」に改めた。(平成31年度) (別添資料Ⅲ-1、2、3参照)</p> <p>・臨床実習の成績評価については、臨床実習指導者による成績評価を参考程度とし、大学における単位認定は、臨床実習委員会において成績判定に必要な項目について検討し、総合的に判断することに改めた。(平成31年度) (別添資料Ⅲ-4、5、6、7、8、9参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>5. 各専攻の必修科目である臨床実習Ⅲを履修するための要件としている「客観的臨床能力試験(OSCE)」の位置付けや内容については、履修要項や学生便覧等で明確に記載して履修指導を行うこと。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・臨床実習委員会において、「臨床実習の手引き」ならびに「学生用マニュアル」を検討し作成するとともに、「客観的臨床能力試験(OSCE)」の実施計画を作成、学生へ周知するための資料も作成する。これらの作成した資料を学生に配布し、履修指導を行うこととする。(平成31年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・「臨床実習の手引き」を作成する。(令和元年度) ・この手引きを用いて、2年次前期に「客観的臨床能力試験(OSCE)」について説明する。(令和2年度)</p> <p>・「客観的臨床能力試験(OSCE)」に関する「学生用マニュアル」を作成する。(令和2年度) ・このマニュアルを用いて、3年次4月に、試験までの期間の自己学習と試験準備、試験内容について説明する。(令和3年度)</p>
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>6. 展開科目について、専任教員の配置の充実を検討しつつ、人材育成の目的とする職業分野において、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成するという展開科目の目的を踏まえ、更なる充実に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p><専任教員の配置の検討> ・計画時の展開科目を担当する兼任教員については、各専攻において養成する人材像に照らし、それぞれの専門領域において、相当の学識または教育経験、実践経験を有する高度な授業を効果的に実施できる実力者が就任している。創造的な役割を果たすために必要な能力を育成するために、完成年度までは、この兼任教員と各専攻の専任教員が連携して学生の教育にあたり、計画通りに履行する。</p> <p>・専任教員の配置については、カリキュラムにおいて展開科目を見直す場合に、完成年度以降にて、いずれの専攻においても専任教員を配置するように検討したいと考えている。 (平成31年度)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>

			<p><展開科目の運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が展開科目と専門領域の科目との関連性を理解できるよう、展開科目に配置する専任教員の他に、展開科目群に関してマネジメントを行う専任教員を配置した。展開科目に配置する専任教員の教授2名と、各専攻長および学科として統括するために学科長を加えた4名により、開学時より教育課程における展開科目の運用に関するマネジメントを行うものとした。 ・教員体制によるマネジメントの取り組みとして、運用に係る会議を行い、学科長を責任者として、各専攻長からの報告を踏まえ、カリキュラムの適切な進捗に向け、兼任教員との連携や学生指導に必要な業務内容について検討を行い、展開科目の目的が達成できるように努める。 ・各専攻長は、①展開科目担当の各兼任教員との連絡調整、②専門領域の科目の担当教員への、各展開科目の授業の概要・目的等についての周知、③学生への展開科目と専門領域の科目との関連性についての履修指導、を行う。 (別添資料Ⅳ参照) (平成31年度) 		
認可時 (30年10月)	7. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに専任教員を充足すること。	遵守事項	・補充する専任教員として、准教授1名を充てることとした。(平成31年度)	履行中	・科目開講時までに、専任教員採用等設置計画変更書(AC教員審査)の判定を受ける。
認可時 (30年10月)	8. 学科長や一部の専攻長に講師を充てているが、学科長等は他の教授等を指導して教育研究を運営するマネジメントの要となるため、教育研究に十分な経験を積んだ適切な職位の専任教員に改めること。	遵守事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長は、学科長選考規程第3条に基づき、本学専任教員である教授に改めた。 (別添資料Ⅴ-1参照) ・作業療法学専攻長は、専攻長選考規程第3条に基づき、本学専任教員である准教授に改めた。 (別添資料Ⅴ-2参照) (平成31年度) 	履行済	「該当なし」

高知リハビリテーション専門職大学

<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>9. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完成年度時に、定年を延長して採用する専任教員は12名である。定年規程の一部を改正し、73歳を超えて延長はできないものとする予定であり、完成年度末に退職する専任教員は教授8名で、継続延長は教授2名、准教授1名、助教1名である。専任教員の後任については、専任教員数36名体制を維持することを基本方針とし、学科全体と各専攻の教員構成のバランス、科目適合性や年齢構成も考慮して適切に補充する。 ・学内教員からの内部昇格、公募による中堅及び若手教員を採用する等バランスのとれた年齢構成の教員研究組織となるように努める。 ・下位の職位の若手教員に対して、個人研究費並びに共同研究費を支給、研究時間を確保、研究成果を学術誌や紀要に発表するよう奨励する。 ・学位未取得の教員に対しては、大学院進学を積極的に支援する。 (令和元年度) 	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完成年度後の専任教員数は、内部昇格や公募により、教授13名、准教授7名、講師14名、助教2名の合計36名とする計画である。 ・実務家教員については、基準実務家教員数(11名以上)を遵守する人員を配置する計画である。実務家教員のキャリアを維持し、常に最新の実務感覚が更新できるように、提携先の病院や施設等において定期的に実務に従事するよう努める。 ・学位未取得の教員(助教)に対して、大学院進学を支援する。
<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>10. 本学は各専任教員の研究室が個別に整備される計画であるが、今後も教員が研究するための実験研究室なども含めた研究環境の充実に努めることが望ましい。</p>	<p>改善事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究環境の充実に図るために、教員が研究するための実験研究室の整備に努める。 ・研究上の利便性も考慮して、学内各専攻に分散して配置されている各種機械・器具を集中配置や、必要に応じて新たな機械・器具等を揃えていくことも検討する。 (令和元年度) 	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育水準の低下を招かないよう、実習室1室の使用用途を再検討し、教員用実験研究室として再整備することを計画している。

高知リハビリテーション専門職大学

<p>認可時 (30年10月)</p>	<p>11. 学生が教育研究を行なう上で外国の文献に触れる機会を担保するため、電子ジャーナルを充実することが望ましい。</p>	<p>改善事項</p>	<p>・インターネットで配信される外国文献が検索・閲覧できるデータベース「ProQuest Nursing & Allied Health Database+MEDLINE」を契約した。利用可能な電子ジャーナルは医学・看護分野で約1,400誌で、リハビリテーション関係は、理学療法学関連が30誌、作業療法学関連が29誌、言語聴覚学関連28誌、合計87誌収録されている。 (別添資料VI参照)</p>	<p>履行済</p>	<p>「該当なし」</p>
------------------------------	---	-------------	---	------------	---------------

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜リハビリテーション学部 リハビリテーション学科＞

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 施設・設備</p> <p>a 教員研究室15 (21.82㎡) 本館3階</p> <p>b 事務局長室 (27.41㎡) 本館1階 男子更衣室 (37.90㎡) 本館2階</p> <p>c 倉庫 (15.36㎡) 本館2階 倉庫2 (20.74㎡) 本館2階</p>	<p>① 施設・設備 ※校舎の総面積は減じない</p> <p>a 教員研究室15 (18.99㎡) 本館4階 計画していた教員研究室のドアが、建築上防火扉を設置することとなり、外部より室内の状況を見ることができなくなった。教員研究室は学生指導にも使用する場所であり、本学ではハラスメント防止等の対応として、室外より室内が見えるようガラスをはめ込んだドアを使用することとしていたことから、学生への配慮を考え、教員研究室として十分な広さのある4階の器具庫と入れ変えて配置した。部屋の広さは、他の教員研究室と同等に確保されており、教育研究上の支障はない。 (別添資料① 参照)</p> <p>b 事務局 (27.41㎡) 本館1階 事務局 (37.90㎡) 本館2階 大学運営に必要な事務局員数を配置することになり、計画時より増員となったことから、業務に必要な面積の確保として、事務局長室と男子更衣室を事務局に変更した。学生の利便性を考慮して、1階を教務学生課等の配置とした。男子更衣室については、別の場所を確保し配置しており、学生の教育上の支障はない。 (別添資料① 参照)</p> <p>c 男子更衣室 (15.36㎡) 本館2階 女子更衣室 (20.74㎡) 本館2階 2階に男子更衣室しか配置しておらず、女子学生への配慮が不足していたため、学生の利便性を考慮し、女子更衣室を新たに配置した。校舎内に男子更衣室と女子更衣室の室数を同じ(4室)としており、学生の教育上の支障はない。 (別添資料① 参照)</p>
<p>d 臨床技能総合実習室 (69.12㎡)</p>	<p>d 臨床技能総合実習室 (53.76㎡) 専門学校時の平成26年に、旧パソコン実習室1室 (69.12㎡) を臨床技能実習室 (53.76㎡) と倉庫 (15.36㎡) に区分する改修を行い、使用していたものである。大学設置計画時の図面を改修前の1室として記載したことによる誤記である。計画時より面積が減じるものではなく、専門学校にて使用していた実習室をそのまま継続して使用するものであり、学生の教育上の支障はない。 (別添資料① 参照)</p>
<p>e 教員研究室21 (21.51㎡) 教員研究室22 (21.51㎡) 教員研究室23 (20.70㎡)</p>	<p>e 教員研究室21 (18.99㎡) 教員研究室22 (18.00㎡) 教員研究室23 (19.71㎡) 大学設置計画時、教員研究室は1室あたり20㎡を基準とし、専門学校時のゼミ室の壁面を移動して面積を確保することにした。工事に着手した時点で壁面を移動させる手間と改修費が予定より大幅に増加することが判明したため、改修を取りやめて、従来のゼミ室の区分のままで教員研究室として使用することとした。教員研究室として十分な広さは確保できており、教育研究上の支障はない。 (別添資料① 参照)</p>

<p>② 大学と専門学校の教室使用計画</p> <p>a 実習室</p> <p>平成31年度 1階 陶芸実習室、義肢装具加工室 3階 運動療法実習、物理療法実習室 検査・測定実習室、運動学実習実験室 5階 小児遊戯訓練室、小児訓練演習室 集団訓練演習室、成人訓練演習室 聴力検査実習室、観察室2 以上については、専門学校にて使用。</p> <p>平成33年度 2階 言語心理検査室、基礎医学実習室 3階 運動療法実習、物理療法実習室 検査・測定実習室、運動学実習実験室 4階 日常動作・評価実習室 レクリエーション室 絵画・織物・手芸実習室 木工・金工実習室 5階 小児遊戯訓練室、小児訓練演習室 集団訓練演習室、成人訓練演習室 聴力検査実習室、観察室2 以上については、大学にて使用。</p> <p>b 講義室</p> <p>校舎の2・3・4・5階とも、大学と専門学校が使用する。</p> <p>平成31年度 各階の1室を大学、3室を専門学校 平成32年度 各階の2室を大学、2室を専門学校 平成33年度 各階の3室を大学、1室を専門学校</p> <p>c 更衣室</p> <p>校舎の3階・4階・5階とも大学と専門学校の共用として使用する。</p> <p>平成31年度 大学と専門学校 平成32年度 大学と専門学校 平成33年度 大学と専門学校</p>	<p>② 大学と専門学校の教室使用計画</p> <p>a 実習室</p> <p>令和元年度（平成31年度） 左記の実習室は、大学と専門学校の共用 令和3年度（平成33年度） 左記の実習室は、大学と専門学校の共用</p> <p>専門学校の科目履修も踏まえて使用計画を作成していたが、大学1年次より実習室を使用する該当科目がなくとも、学修の機会として全実習室を使用できるよう計画を変更し、入学時から職業に対する興味・関心を高めることができるように変更した。専門学校4年次についても、臨床実習を履修することから、学内での事前事後の学修で使用できるようにした。</p> <p>上記の変更により、開学時よりすべての実習室を、大学と専門学校の共用として使用するものである。大学と専門学校で、実習室の使用が重複しないように時間割を作成するとともに、空き時間の使用についても、計画調整するものとしており、教育上の支障はない。</p> <p>(別添資料②一表および②一図参照)</p> <p>b 講義室</p> <p>校舎の2・3・4・5階で、大学と専門学校を区分して使用する。</p> <p>令和元年（平成31年度）2階を大学、3・4・5階を専門学校 令和2年（平成32年度）2・3階を大学、4・5階を専門学校 令和3年（平成33年度）2・3・4階を大学、5階を専門学校</p> <p>各階で大学と専門学校の講義室が混在すると、講義室の移動に際し、短時間に多くの学生が階段を使用することとなり、混雑と危険が生じることが予測された。合わせて、使用する階が分散することで、大学の学生同士の交流の機会が減少することも懸念されたことから、使用する講義室を各階で大学と専門学校に区分することに変更した。教育上の支障はない。</p> <p>このことにより、学生がどちらの所属が明確となり、教員が学生の状況を把握した指導を行うことができるようになる。</p> <p>(別添資料②一表および②一図参照)</p> <p>c 更衣室</p> <p>校舎の2・3・4・5階で、大学と専門学校を区分して使用する。</p> <p>令和元年（平成31年度）2階を大学、3・4・5階を専門学校 令和2年（平成32年度）2・3階を大学、4・5階を専門学校 令和3年（平成33年度）2・3・4階を大学、5階を専門学校</p> <p>上記の講義室と同様に、使用する更衣室を各階で大学と専門学校に区分することに変更した。更衣室には、個別のロッカーを設置しており、日常的に実習前後の更衣以外でも使用することから、使用する講義室と同じ階に配置して使用することに、教育上の支障はない。</p> <p>(別添資料②一表および②一図参照)</p>
<p>③教育課程連携協議会構成員名簿</p> <p>番号3 教職員 作業療法学専攻 大塚 貴英</p>	<p>③教育課程連携協議会構成員名簿</p> <p>番号3 教職員 作業療法学専攻 辻 美和</p> <p>附帯事項8について、作業療法学専攻長を大塚貴英から辻美和に変更した。教育課程連携協議会構成員には、専攻長を置くことにしているため、構成員を大塚貴英から辻美和に変更することとした。</p> <p>(別添資料③ 参照)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

- ① 実施体制
- a 委員会の設置状況
FD委員会、SD委員会設置（平成31年4月）
（別添資料④ 参照）
- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
未開催（FD委員会及びSD委員会：令和元年7月第1回会議を開催予定）
- c 委員会の審議事項等
- ① FD委員会
- ・教育の質的向上に向けた諸施策の企画・立案及び支援
 - ・職員の研修等の企画・実施及び支援
 - ・職員の能力開発の推進に向けた諸施策の企画・実施及び支援
 - ・授業の改善に関すること
 - ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）主催プログラムの参加及び支援
- ② SD委員会
- ・教育の質的向上に向けた諸施策の企画・立案及び支援
 - ・職員の研修等の企画・実施及び支援
 - ・職員の能力開発の推進に向けた諸施策の企画・実施及び支援
 - ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）主催プログラムの参加及び支援
- ② 実施状況
- a 実施内容
- ① FD委員会
- ・教員研修（開学前 平成30年12月）
- ② SD委員会
- ・SD研修（新任職員研修）（令和元年5月）
- 今後の教職員研修会参加については、FD委員会及びSD委員会で検討していく。
- b 実施方法
教職員研修会参加等、今後FD委員会及びSD委員会で検討していく。
（特にSPOD主催のプログラムには積極的に参加予定である）
- c 開催状況（教員の参加状況含む）
- ① FD委員会
- ・専門分野における医療英語（平成30年12月 25名）
- ② SD委員会
- ・SD研修（新任職員研修）（令和元年5月：SPOD主催 1名）
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- ・FD委員会
- 現在は具体的な取り組みは行われていない。今後、研修会に参加し、教員間で情報共有を行い、授業改善に努めていく予定である。
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
未実施。令和元年度前期授業終了後及び後期授業終了後に、授業評価アンケートを実施する。アンケート結果について、FD委員会検討し、授業の改善に努める。
- b 教員や学生への公開状況、方法等
学科全体及び専攻ごとに集計及び検討し、年度末に報告書を作成する。教職員に報告書を配布し、また、大学のホームページにも公開する予定である。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

高知リハビリテーション専門職大学

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

設置状況…産業界及び地域社会等と連携して教育課程の編成をするために、学長のもとに「教育課程連携協議会」を設置する。教育課程連携協議会設置規程を制定（平成31年4月1日施行）

構成員の交代…付帯事項8について、作業療法学専攻長を大塚貴英から辻美和に変更した。教育課程連携協議会構成員には、専攻長を置くことにしているため、構成員を大塚貴英から辻美和に変更することとした。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

未開催（令和元年9月及び令和2年3月に開催予定）

c 委員会の審議事項等

(1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

(2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

今後開催する教育課程連携協議会により審議を行っていく。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

未開催のため該当なし。開催後、見直しに向けた取り組みを行っていく。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

未開催のため該当なし。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
開学後1カ月が経過しており、設置認可申請書に記載した内容に基づき、大学運営を行っている。専門職大学の特性を活かし、今後も設置の趣旨・目的を遵守し大学運営を行う。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期
・令和 2年 10月 公表予定

b 公表方法
・大学ホームページ上に公開予定（令和 2年 10月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画
・学内で検討中であり、具体的な計画は未定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和2年 4月末 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

高知リハビリテーション専門職大学

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した計画を記入ください。
 - 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
 - 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。
- その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>大学入学者の選抜は、大学教育を受けるのに相応しい能力、適性を多面的・総合的に評価し、公正かつ妥当な方法で実施する。求める人物像として「知識・教養」「思考・判断力」「協働性」「探究心」「関心・意欲」の5つの観点に整理した。これらのアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を連動させた。入試方法については、「一般入試」「AO入試選考」「指定校推薦」「公募制推薦」「社会人選考」の5つとする。</p> <p>AO入試においては、学力だけでなく、個性や創造性が豊かで、意欲にあふれた学生を受け入れる。</p> <p>選抜方法は、本学でのゼミナール(講義と演習)を修了した者の中からゼミナールの成績、面接、志望理由書、活動報告書を資料とし総合判定する。(募集人員:理学療法専攻14名、作業療法専攻8名、言語聴覚専攻8名)</p> <p>・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>社会人選考は、下記のいずれかに該当する者で、将来、保健医療専門職として働く意欲を持って学ぶことができる者に対して、学力試験を免除し、小論文及び面接、志望理由書の内容を総合的に判定して行う。</p> <p>a.大学入試資格を有する者で、社会人として2年以上の経験のある者 b.大学を卒業した者あるいは3月卒業見込みの者 c.短期大学を卒業後、社会人として1年以上経験のある者 d.高等専門学校を卒業後、社会人として1年以上経験のある者 (募集人員:公募制推薦入試を含む。公募制推薦入試の募集人員:理学療法専攻7名、作業療法専攻4名、言語聴覚専攻4名)</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p><AO入試 入試内訳> 理学療法専攻:受験者 10名・合格者 9名 作業療法専攻:受験者 7名・合格者 4名 言語聴覚専攻:受験者 3名・合格者 6名(別専攻から2次志望による合格者含む)</p> <p><社会人入試 入試内訳> 理学療法専攻:受験者 0名・合格者 0名 作業療法専攻:受験者 0名・合格者 0名 言語聴覚専攻:受験者 1名・合格者 1名</p>

② 臨地実務実習

認可(設置)時の計画	履行状況																				
<p>・ 実習先の確保の状況</p> <p>本学の臨床実習受け入れを承諾した施設は下記に示しているが、高知県を中心に西日本をはじめとする全国各地の施設からの承諾を受け、各専攻における臨床実習目標に対応できるよう臨床実習施設を確保している。各専攻の臨地実務実習施設の地域別割合は、下記(各専攻の臨地実務実習施設の地域別割合)の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>理学療法専攻</th> <th>作業療法専攻</th> <th>言語聴覚専攻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総数</td> <td>118施設</td> <td>113施設</td> <td>96施設</td> </tr> <tr> <td>高知県</td> <td>60施設(50.8%)</td> <td>72施設(63.7%)</td> <td>48施設(50.0%)</td> </tr> <tr> <td>四国3県</td> <td>16施設(13.6%)</td> <td>22施設(19.5%)</td> <td>21施設(21.9%)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>42施設(35.6%)</td> <td>19施設(16.8%)</td> <td>27施設(28.1%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 実習水準の確保の方策</p> <p>臨床実習委員会を設置し、臨床実習水準を確保するため、臨床実習指導体制、および臨床実習受け入れ施設との連携体制の構築を行うとともに、学生に対しては、臨床実習オリエンテーションを通して、臨床実習の目的を周知し、学生の不安を軽減し、早期に問題対応できる体制を構築する。</p> <p>臨床実習にかかる教員と受け入れ施設の臨床実習指導者等で構成される臨床実習指導者協議会を年1回開催し、参加者の臨床実習運営に関わる情報交換をするとともに、臨床実習における学修成果の評価を共有し、課題の検討を大学側と受け入れ施設側で共に行う。その結果を受けて、次年度の臨床実習を計画することにより、学修環境や指導体制の改善に繋げることができる。その上で、臨床実習指導においては、大学側と臨床実習指導者とが緊密に連絡をとり、より高い学修効果が得られるよう臨床実習環境を整える。各専攻の臨床実習指導者は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士としての10年以上の実務経験と高い実践能力を有し、学生の行動の規範となる手本を示すことのできる者である。</p> <p>・ 実習先との連携体制</p> <p>大学臨床実習担当教員と臨床実習指導者は適時連絡を取り合い、学生指導及び臨床実習全般の調整を行う。臨床実習担当者による臨床実習巡回指導では、大学と臨床実習施設との情報交換、連携が十分に図れる体制をとる。</p> <p>また、専任教員は巡回指導時以外にも臨床実習指導者ならびに学生と1週間に1回程度定期的に連絡をとり、臨床実習の状況を確認するとともに、学生及び臨床実習指導者が抱える悩みや問題等について指導・援助できる体制をとる。</p> <p>・ 連携実務演習等 記載なし</p>		理学療法専攻	作業療法専攻	言語聴覚専攻	総数	118施設	113施設	96施設	高知県	60施設(50.8%)	72施設(63.7%)	48施設(50.0%)	四国3県	16施設(13.6%)	22施設(19.5%)	21施設(21.9%)	その他	42施設(35.6%)	19施設(16.8%)	27施設(28.1%)	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>未実施</p> <p>未実施</p> <p>未実施</p>
	理学療法専攻	作業療法専攻	言語聴覚専攻																		
総数	118施設	113施設	96施設																		
高知県	60施設(50.8%)	72施設(63.7%)	48施設(50.0%)																		
四国3県	16施設(13.6%)	22施設(19.5%)	21施設(21.9%)																		
その他	42施設(35.6%)	19施設(16.8%)	27施設(28.1%)																		

高知リハビリテーション専門職大学

③ その他

認可（設置）時の計画	履行状況
<p>・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置 教育効果を確保するために、授業担当教員に専任教員や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の資格等を有する者を教育補助者としてつけ、学生の授業理解促進のための支援や助言等を行う。また、授業担当教員が円滑な講義が進行できるように補助する。さらに、講義において、気になる点があれば必ず授業担当教員に伝え、よりよい講義につながるようにサポートしていく。</p>	<p>※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>本年度については該当する科目なし</p>